



第133期  
中間報告書

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日



**DID MUGENDAI**

# トップメッセージ

## ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

第133期第2四半期累計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の営業が終了いたしましたので、中間報告書をお届けし、ご報告申し上げます。

2025年12月

代表取締役社長 新 家 啓 史



## 樫本チエインとの経営統合

当社は2025年5月14日に、「株式会社樫本チエインと大同工業株式会社との経営統合に関する経営統合契約及び株式交換契約締結（簡易株式交換）のお知らせ」を開示し、6月24日の大同工業定時株主総会にて株主の皆様のご承認をいただきました。当社の企業価値向上に向けた大きな決断に対してご賛同をいただいた株主の皆様へ、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

経営統合後は大同工業グループを含めた樫本チエインの株主として、大同工業グループとつばきグループのシナジーによる企業価値の向上を経済的に享受していただくことが可能になると考えております。当社にとって「最も高

い企業価値を創出できる」だけでなく「株主様に不利益にならない」選択であるとの評価を前提に、今回の経営統合の決断に至っております。

一般的な上場メリットの喪失や経営自由度の制約といったデメリットはもちろんありますが、今回の経営統合にはそれを遥かに超えるメリットがあると確信しています。“完全子会社化”という言葉にはとすればネガティブなイメージがあるかもしれませんが、決して後ろ向きの統合ではなく、大同工業の企業価値向上や成長に向けた大きなチャンスであり、統合シナジーや会社としてのパフォーマンスの最大化に挑戦していく所存です。

## 「良い会社」から「強い会社」へ



## 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調となりました。一方で、物価や人件費の高騰、原材料・エネルギー価格の高止まり、欧米の景気減速や中国経済の回復鈍化、中東・ウクライナ情勢の長期化などにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループの当中間連結会計期間の売上高は29,193百万円（前年同中間期比1.6%増）、営業利益は892百万円（前年同中間期比17.6%増）、経常利益は877百万円（前年同中間期比4.6%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は446百万円（前年同中間期比17.7%減）となりました。

なお、株式会社橋本チエインを株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換実施に向けての関連手続に際し発生した経営統合費用454百万円を特別損失（経営統合関連費用）に計上しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

### ①二輪部品事業

外部顧客への売上高は15,853百万円（前年同中間期比4.8%増）、営業利益は1,234百万円（前年同中間期比24.4%増）となりました。日本及び中国での完成車メーカー向け販売が好調に推移したほか、前期から継続してコスト上昇分の価格転嫁を進めたことにより、売上・利益ともに前年同中間期を上回りました。

### ②自動車部品事業

外部顧客への売上高は2,536百万円（前年同中間期比8.0%減）、営業損失は164百万円（前年同中間期は108百万円の営業利益）となりました。日本及び中国での自動車メーカー向け受注が低調であったことや、コスト上昇分の価格転嫁が遅れたこともあり、売上高は前年同中間期を下回り、営業損失に転じました。

### ③産機事業

外部顧客への売上高は6,548百万円（前年同中間期比4.9%減）、営業損失は319百万円（前年同中間期は242百万円の営業損失）となりました。タイでの搬送関連設備の受注が低調であったことにより、売上・利益ともに前年同中間期を下回りました。

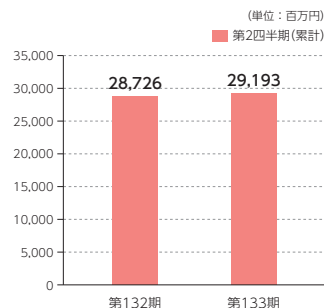
### ④その他

外部顧客への売上高は4,255百万円（前年同中間期比7.6%増）、営業利益は159百万円（前年同中間期は65百万円の営業損失）となりました。ハンズフリーモビリティ「UNI-ONE」の生産開始や、自動車メーカー向け輸出関連の鋼材加工の受注が堅調に推移したことから、売上高は前年同中間期を上回り、営業利益に転じました。

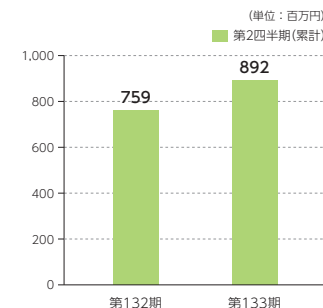
なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来地域の基礎としたセグメントから事業を基礎としたセグメントに変更しており、以下の前年同中間期比較については、前年同中間期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## 主要な指標

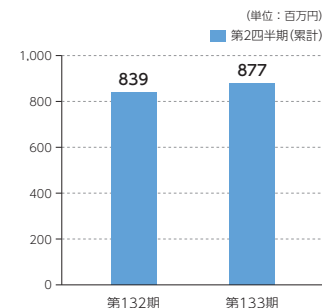
### 売上高



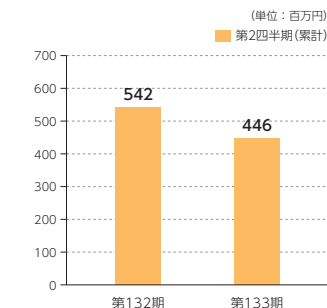
### 営業利益



### 経常利益



### 親会社株主に帰属する中間純利益



より詳細な財務情報をご希望の方は、当社ホームページ [投資家向け情報] をご覧ください。

<https://www.did-daido.co.jp/ir/index.html>



受け継がれる創業の精神

# 大同致遠

大いなる目的のため、  
一致団結して高遠なる理想実現に努力すべし。

20世紀初頭に一人の漆器職人が世界に目を向け、激動の時代に親子二代に亘って国益に沿った事業を標榜し、石川県加賀の山村から一大事業を築く。

“大同致遠”には、理想に向かい一致団結して挑戦し続ける创业者の魂が込められており、時代を超えて今もフィロソフィーの中に息づいています。



創業者 新家熊吉



二代目 新家熊吉

1880



漆器家業の継承

16歳で山中漆器の木地挽職人として家を継承。

1902



漆器から木製リムへ

海外へ販路を求め渡航。ウラジオストックにおいて自転車の木製リムを目にし、漆器木地の生産技術の転用による事業化の着想を得る。「新家商会」を設立し木製リムの製作を開始。

1913~1933



鉄製リム・チェーンの国産化

二代目熊吉と共に渡英、鉄製リムの一貫生産に着手。第1次世界大戦の影響による輸入途絶もあり注文が殺到。鉄製リムへの転換に成功する。国産化が遅れていた自転車チェーンの輸入防遏と国益に沿った事業展開を標榜し「国益チエン株式会社」を設立。

1935~1938



大同団結から大同工業へ

激しい販売合戦によるチェーン市場の混乱に対し、業界の危機を回避するため各社が利益を共有する「大同団結」を決断し、大同チエン株式会社発足（国益チエン、朝日チエン、加賀チエンの3社合併）。その後、「大同工業株式会社」へ改称し現在に至る。

# 2026



▲ パキスタンに  
合併会社ATLAS DIDを設立



▲ 動橋工場の新設



▲ 福田工場の新設

# 2019

# 2024



◀ 私たちのフィロソフィー  
[DID MUGENDAI] 策定



◀ 新鋼材倉庫新設

# 1998



▲ 福祉機器工場/本社事務所棟新設

# 1971

# 1978

## 株式会社椿本チエイン との経営統合 (予定)

当社は、2024年12月13日、株式会社椿本チエインから、椿本チエインを株式交換完全親会社、大同工業を株式交換完全子会社とする株式交換を実行することで、両社の経営資源を融合し、効率的な運営体制の構築、グループ全体の収益力向上及び経営の強化を目的とする、経営統合の提案を受領しました。

椿本チエインからの提案について慎重に検討した結果、両社グループの有する人材、資産、技術、ノウハウ等の経営資源を相互に活用し、両社グループ全体での最適な財務戦略を実現することにより、新たな事業機会の創出を可能とし、ひいては両社グループの中長期的な視点に立った経営戦略を機動的に実現することが可能となるため、当社の企業価値向上に資するとの認識に至り、提案を受諾することを決断いたしました。

経営統合や株式交換比率等の詳細は、  
本件に関する適時開示資料をご参照ください。

<https://www.did-daido.co.jp/uploads/download/F3286wVAA>



## ■ 経営統合によるシナジー・両社のメリット

- 椿本チエインのグローバルサウス市場本格進出における大同工業の製造拠点の活用
- 北米/欧州における椿本チエインの強力なビジネス基盤の活用
- 大同工業の開発製品のつばきグループ販売網を活用した拡販
- 椿本チエイン製品の大同工業販路での販売
- コンペヤ領域における協業



- 「サステナブルプロダクト」の共同開発
- チェーンに関する両社の保有技術の融合による新たな製品の創出
- 製造段階でのCO<sub>2</sub>排出削減、排熱利用などの課題への共同での取り組み

## トピックス

### ■ DID MUGENDAI フェスティバル2025 開催



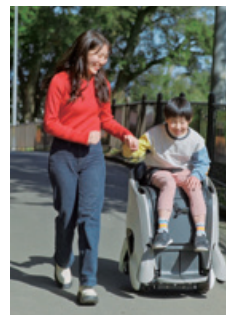
2025年5月24日、当社本社駐車場周辺にて6年ぶりとなるフェスティバルを開催いたしました。能登復興支援トークセッションや各種ステージイベントを通じ、地域の皆様や従業員との交流を深めました。今後も地域社会との共生を重視し、持続的な企業価値向上に努めてまいります。



### ■ UNI-ONE量産受託



当社は、2022年に始動したHondaのハンズフリーパーソナルモビリティ「UNI-ONE」量産プロジェクトに参画しており、本年8月より本社工場で量産を開始いたしました。Honda開発のプロトタイプを基に、当社は量産設計の一部を担当し、福祉機器分野で培ったノウハウを活かして設計改善や部品内製化を提案した結果、Hondaから高い評価を得て、量産受託に至りました。販売は国内法人向けに2025年9月24日より開始し、2030年までの5年間で1,000台限定を予定しております。



### ■ D.I.Dブランド、世界選手権で日本人初の総合優勝をサポート

当社ブランドアンバサダーである下田 丈選手（TEAM HONDA HRC所属）が、2025年9月20日にラスベガスで開催された「AMAスーパーモトクロス世界選手権」最終戦・250SMXクラスで、日本人として初めてシリーズ総合優勝を達成しました。本大会では当社製品「ERシリーズチェーン」及び「Dirt Starリム」を装着し、世界最高峰の舞台でその性能と信頼性を証明しました。この歴史的快挙は、当社の技術力を世界に示すものであり、当社にとっても大変喜ばしいことです。



# 会社概要・株式情報 (2025年9月30日現在)

## 会社の概況

商号	大同工業株式会社
設立年月日	1933年5月25日
資本金	35億3,651万円
従業員	854名(個別) 2,487名(連結)
(注)	上記従業員数は就業人員であり、臨時雇用者(定年後再雇用社員、派遣社員等)は含んでおりません。

## 事業所

本社・本工場	石川県加賀市熊坂町イ197番地
福田工場	石川県加賀市大聖寺下福田町ソ20
動橋工場	石川県加賀市動橋町中22-1
東京支社	東京都中央区日本橋人形町3-5-4 (オーキッドプレイス人形町三丁目)
札幌営業所	札幌市東区北18条東18-1-3
名古屋営業所	名古屋市中村区名駅南4-9-7
大阪営業所	大阪市中央区南船場2-12-12 (新家ビル)
西日本営業所	福岡市博多区博多駅南1-3-6 (第三博多借成ビル)
熊本営業所	熊本県菊池市旭志川辺1074-1

## グローバルネットワーク

### 国内ネットワーク

- 株式会社大同ゼネラルサービス
- 株式会社大同テクノ
- ガイド建設株式会社
- 新星工業株式会社
- 株式会社月星製作所
- 株式会社和泉商行
- 株式会社スギムラ精工

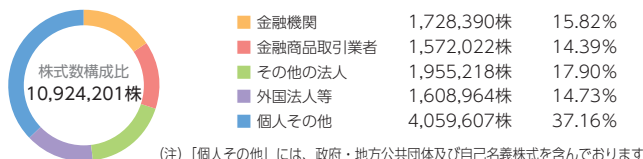
### 海外ネットワーク

- |          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| ■ 中国     | ① 大同鏈条(常熟)有限公司                       |
| ■ フィリピン  | ② D.I.D PHILIPPINES INC.             |
| ■ インドネシア | ③ P.T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING |
| ■ ベトナム   | ④ D.I.D VIETNAM CO., LTD.            |
| ■ マレーシア  | ⑤ DID MALAYSIA SDN. BHD.             |
| ■ タイ     | ⑥ DAIDO SITTIPOOL CO., LTD.          |
| ■ タイ     | ⑦ D.I.D ASIA CO., LTD.               |
| ■ タイ     | ⑧ INTERFACE グループ (3社)                |
| ■ インド    | ⑨ DAIDO INDIA PVT. LTD.              |
| ■ パキスタン  | ⑩ ATLAS DID (PRIVATE) LTD.           |



## 株式の状況

発行可能株式総数	32,000,000株
発行済株式総数	10,924,201株 (自己株式768,057株含む)
株主数	3,628名



## 大株主 (上位10名)

株主氏名及び名称	持株数	持株比率
株式会社 飯田	709千株	6.98%
株式会社 北國銀行	503	4.96%
大和証券株式会社	459	4.53%
モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社	316	3.12%
野村証券株式会社	277	2.73%
日本生命保険相互会社	275	2.71%
加賀社工業株式会社	262	2.59%
株式会社 三菱UFJ銀行	258	2.54%
新家 萬里子	257	2.53%
LGT BANK LTD	247	2.44%

(注1) 当社は、自己株式を768,057株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
 (注2) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月開催		
単元株式数	100株		
単元未満株式の 買取制度	1単元	(100株)	
	単元未満株式	(1から99株)	
基準日	定時株主総会	3月31日	
	剰余金の配当	期末 3月31日	
		中間 9月30日	
	そのほか必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日		
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
(電話照会先)	☎ 0120-782-031		
(インターネットHP URL)	<a href="https://www.smtb.jp/Personal/procedure/agency/">https://www.smtb.jp/Personal/procedure/agency/</a>		
公告の方法	当社ホームページに掲載(電子公告) <a href="https://www.did-daido.co.jp/jp/index.html">https://www.did-daido.co.jp/jp/index.html</a>		
上場取引所	東京証券取引所		
証券コード	6373		

## 統合後の株式の取扱いについて

### 単元未満株式の取扱い

経営統合に伴う株式交換により、椿本チエインの単元未満株式（100株未満の株式）を保有することとなる大同工業の株主の皆様については、当該株式交換の効力発生日以降、椿本チエイン株式に関する以下の制度をご利用いただくことができます。

#### ①単元未満株式の買増し制度（1単元（100株）への買増し）

椿本チエインの単元未満株式を保有する株主の皆様が、その保有する単元未満株式の数と併せて1単元となる数の株式を椿本チエインから買い増すことができる制度です。

#### ②単元未満株式の買取請求制度（1単元（100株）未満株式の売却）

椿本チエインの単元未満株式を保有する株主の皆様が、その保有する単元未満株式を買い取ることを椿本チエインに対して請求することができる制度です。

### 1株に満たない端数の取扱い

本株式交換に伴い、1株に満たない端数の椿本チエイン株式の交付を受けることとなる大同工業の株主の皆様に関しては、会社法第234条その他の関連法令の定めに従い、その端数の合計数（その合計数に1に満たない端数がある場合は切り捨てるものとします。）に相当する椿本チエイン株式を売却し、かかる売却代金をその端数に応じて当該株主の皆様へ交付いたします。

